

目的・目標

映画・アニメーションの業界各団体が連携し、長期的視点に立って日本の若手クリエイターを支援することで、海外企画マーケットへの参加や国際映画祭公式出品の機会を増やし、国際的に活躍できる人材を育てる

概要

3年間で最大15企画の制作者(監督、プロデューサー、脚本家、アニメーション・スタジオ)を選出し、企画の内容・進捗に合わせて、制作・映画祭・海外セールス・法務など各方面のアドバイザーが伴走しながら、海外映画祭・マーケット・ラボにおけるネットワーキング構築や、英語によるピッチングなどの実践的な活動訓練を行い、企画発表する場を設ける。このうち、4企画については企画・脚本開発を行うための海外レジデンスプログラム(滞在型支援)を実施する。

3年目までの取組

18カ月を1タームとして育成対象者を募集(計2期/11企画予定)。選抜された企画をアドバイザーが伴走しながら、東京国際映画祭(TIFF)・TIFFCOMや、海外の主要な映画祭・マーケット(ベルリン、カンヌ、アヌシーなど)へ参加し、実務者とネットワーキングを構築しながら企画開発を進める。また、海外レジデンスプログラム(4名)では1か月程の海外滞在中に、現地メンターと共に企画・脚本開発やブラッシュアップを行い、国際企画マーケット・ラボ等への参加を目指す。

プログラム全体では、育成者同士で知見を広く共有し、制作段階でベテランアドバイザーと若手クリエイター間でリスキングを行うことも視野にいれ、ネットワーク構築を促していく。

5年目までの取組



第3期の育成対象者を募集し、同様のサイクルで継続的に育成対象者を増やしていくと同時に、第1期以降の育成対象者の企画のフォローアップ(作品完成時の海外映画祭の出品支援等)を行い、本プログラム全体の充実を図る。



(分野・ジャンル)

メディア芸術(映画、長編アニメーション)

(渡航先の国・地域)

・ベルリン(ドイツ)、カンヌ、アヌシー(フランス)、ロッテルダム(オランダ)、他

(国内外の連携・協力体制)

・(一社)日本映画製作者連盟、特定非営利活動法人映像産業振興機構(VIPO)、(一社)日本動画協会、東京国際映画祭ほか国内主要映画祭、日本映画監督協会

・ベルリン、カンヌ、アヌシー国際映画祭併設見本市

成果目標(見込)

目標値

企画段階から海外公演等までに登用される若手クリエイター等の数	15人
国内外の団体・企業等との連携数(連携団体数8、海外事業提携数8)	17件
プロジェクトに関わる海外アーティスト・キュレーター等の数	15人
国内外で展開される公演・展示等の数	8回
国内外で展開される公演・展示等の入場者数	200人

中核となるクリエイターやアドバイザー

映画

・市山尚三 (写真右)
東京藝術大学大学院映像研究科教授
東京国際映画祭プログラミング・ディレクター

アニメーション

・井上伸一郎 (写真左)
ZEN大学客員教授
歴史アーカイブ研究センター副所長



育成対象者: 15人(3年)

新作の企画がある監督、プロデューサー、脚本家、アニメーション・スタジオ

*長編制作の実績が浅い若手を対象とする

【補足資料】

